［県議会報告］

新たなる挑戦

やさしくて強いまち めざします

「初心忘るべからず」
私の人生訓そのものであり、すべての言動の重しです。ここで、おざわ良央が県議会議員として、特に危機感と緊張感を持って議会活動している数点をご紹介します。

神奈川県議会議員

おざわ良央（よしなか）

富士山噴火

噴火時の降灰は、三百年前の宝永噴火の時は、荒れた足柄平野一帯の復興に幕府直轄領として百年近くもの長期間を必要としました。また溶岩流は、噴火口の位置によっては、七日間で小田原市内北部まで到達し、主要インフラは壊滅的な打撃を受けるとの国の推計があります。

避難対策や県民への普及啓発が大きな課題です。

高潮被害と流域治水

神奈川県は令和3年、相模湾全域の高潮被害想定を発表。三浦市から湯河原町までの全沿岸13市町の17㎢が浸水、なんとその三分の一を小田原市が占めます。

足柄平野一帯は酒匂川を始め、狩川、早川、山王川、森戸川、中村川等多くの河川にうるおされています。一方、災害時を想定して〝流域治水〟にさまざまな防災対策が求められます。長期的、短期的なしっかりとした対処が必要です。

出生数減少

人口減少、少子化対策、高齢化社会と、今大きく問われています。私は根本的課題の一つは、出生数の減少だと思います。要因は多岐にわたります。若者の未婚、晩婚化にどう対応するか、経済的支援だけでなく、もっと多面的な視点からのさまざまな支援体制に、県は国や市町村まかせでなく、より積極的に取組むべきです。

脱炭素社会を進める

SDGs(持続可能な開発目標)の17の目標の中でも、特に大きく取り上げられていますが、中でも、〝カーボン・ゼロ〟、〝微小プラスチック〟〝EV充電所の拡充〟等への県の取組に注目しています。

脱炭素化戦略の進め方や温暖化対策計画をもっと積極的に進めるべきと考えます。

コロナ対策

三年余も続くコロナ禍は、地域社会や人々の生活、習慣まで大きく変えつつあります。特に私が心配していることは、高齢者や青少年、子供たちの心身の不調問題です。これを県としてどう把握し、対応するのか。

また、〝ワーケーション〟が近距離移住現象を進めています。これが新しい日常として定着するか否か。いわば県や市町村の対応が問われています。県の支援策の一層の拡充が必要です。

県政全体からみた大局的な課題、また地域社会のきめ細かな仕事、とまだまだ県議会活動は続きます。県議生活二期を経験し、未来へ向かって今、〝やさしくて強いまちづくり〟に全力活動です。

企画制作・おざわ事務所
Tel.0465-35-0001 Fax.0465-35-4666
info@ozawayoshinaka.com